

## 令和元年度 第2回 泉鳥取高等学校 学校運営協議会 議事録

### 学校運営協議会次第

日時 令和元年11月8日(金) 15:00～17:00

場所 泉鳥取高等学校 A棟1階 会議室

#### ○校長室

1. 校長挨拶
2. 打ち合わせ

#### ○会議室

1. 出席議員・事務局員紹介
2. 報告事項
  - ア. 海外修学旅行〔実施報告〕(2年学年主任)
  - イ. 海外修学旅行〔準備・国際交流等〕(1年学年主任)
  - ウ. 高大連携・地域連携等(近西教頭)
  - エ. 教科書選定・入試選抜等(教務部長)

#### 3. 協議事項

- (1) 学校改革について「魅力ある高校とは」
- (2) まとめ

#### 4. 次回連絡ほか

次回予定

第3回 令和2年1月24日(金曜日)

#### 2. 報告事項

##### ア. 海外修学旅行〔実施報告〕(松井教諭)(別紙資料あり)

本校初の海外修学旅行ということで他校を参考にさせていただきつつ、生徒の思い出に残ることと安全に配慮することに留意し実施。日程は令和元年9月5日～9月8日の3泊5日で場所はベトナム・ダナン。大まかな行程としては、1日目は移動、2日目は現地の高校と学校交流、ホイアンの旧市街を班で散策、3日目の午前は文化体験とマリンスポーツのクラスマッチ等のレクリエーションをし、午後は自由時間とした。最終日は世界遺産のミーソン遺跡観光後お土産を購入して帰国するという流れになった。生徒たちは、旅行前は海外への旅行の目的が分からず消極的だったが、旅行後アンケートをとった結果、8割強の生徒がまた外国に行ってみたいと回答し、文化体験やマリンスポーツが楽しかったという意見が多くあった。また帰国後の学校生活では、生徒自らベトナムでの思い出を楽しげに話す様子も見られた。現地の高校生とも親睦を深めることができた様子で、帰国後もSNSでやり取りをしているようである。ベトナムでは英語を使って交流・観光していたこともあり、帰国後も日常会話の中で英語を使う様子も見られ、英語への関心の高まりもうかがえる。保護者からは、子どもが親元を3日間離れて生活するという体験から親のありがたさを実感できていたという意見や、海外に行ったことで日本の安全さや日々の生活の安定感を学んでいたという意見等があった。個々で感じ方は異

なるがさまざまところで学ぶことは多かったように思う。

反省点・課題としては、国民性の違いから現地との連絡がすぐにとれず、予定の急な変更があり予定通りに進まないということがあったことと、ベトナム料理が口に合わない生徒が8割程度みられたことがあげられる。予定のことに関しては、多少の変動は国民性の違いとして生徒の学びにも繋がるが、旅行会社・現地との打ち合わせの際にここだけは必ず押さえておきたいという点は念押ししておく必要があると感じる。食事は現地のもので、なおかつ生徒も楽しめるようなものに調整する必要があると感じる。また、今回旅費を12万円徴収したが、これ以上の増額は厳しいと感じる。

大きなトラブルや、けが、病気で無事に終わることができたことは大変よかったと感じる。

#### イ. 海外修学旅行〔準備・国際交流等〕(新明教諭)

来年も海外に修学旅行に行く予定となっており、その上で今回2年生が一度経験されていることは生徒・教員ともにとても心強いものになっている。今回の課題を踏まえて旅行会社の選定をし、JTBから阪急交通社に変更することになった。

観光大学からは是非ベトナムのことを知ってもらいたいと要望があったこともあり、事前学習として、10月10日に観光大学のベトナム人留学生16名と教授1名を本校に招き、ベトナムの紹介をしてもらった。大学生が事前に作成してきたパワーポイントを使い、各クラスのホームルーム教室でベトナムのことを教えてもらった。民族衣装のアオザイを実際に着用して紹介してくれる大学生もいた。生徒たちのベトナム・海外に対する関心や興味の高まりが感じられた。また、大学生も手ごたえを感じている様子であった。今後も海外修学旅行・ベトナムについての事前学習を進めて行きたいと思っている。

また、保護者への説明会も来年の2月に開こうと考えている。

#### ウ. 高大連携・地域連携等(近西教頭)(別紙資料あり)

##### ①国際交流

7月12日に韓国のクンサン市青少年の家から30名ほどが来校。初の試みで不安感もあったが、一緒に昼食を取り、出し物でダンスや歌を披露しあうなどして本校生徒、韓国の高校生ともに良い思い出になったように感じる。

イングリッシュ・カフェは活動開始から今年で3年目を迎えて落ち着いてきている。今年は新たにハロウィーン・パーティーを開催し、今後は文化祭での実施などを計画している。

##### ②地域連携

地域とのつながりを作るためにいくつかの取り組みを行っている。校内の救急救命講習にもPTAの方や地元自治会の方に参加していただいたり、地元の公民館に茶道部が参加させてもらったりしている。地元の商工会議所の婦人部の清掃活動にも参加した。そのため、地元自治会や公民館の方から「何か協力することがあれば尽力します」との声をもらっている。今後もっと交流を深めてゆければよいと思っている。

##### ③高大連携

和歌山大学から教育ボランティアとして英語専攻の大学生を前期・後期で1名ずつ受け入れている。放課後に生徒への勉強指導や、イングリッシュ・カフェの手伝い等をしてもらおうと思っている。

#### ④N I E

学年の掲示板に新聞記事を掲示している。また、総合学習の時間を利用して新聞記事を読むという活動を行っている。また、N I Eの推進校として新聞社の取材を受け、記事にもなっている。今年はG 2 0でも取り上げられた、海洋ごみ問題の記事を集めたコーナーを作り生徒にも考えてもらいたいと思っている。

#### ⑤芸術鑑賞会

例年は外部で実施していたものを、今年は校内で実施した。非常に興味深い内容で生徒も熱心に聴き入っており、良い鑑賞会となった。

### エ. 教科書選定・入試選抜等（宮崎教諭）（別紙資料あり）

#### ①教科書選定

前年度から変更はなく、例年通りの流れとなった。6月に教科書採択説明会に教頭に出席してもらい、それを受けて教務部から各教科主任に7月頭を締め切りとして教科書選定を依頼。教科書選定委員会を開き選定。教科書の名前や番号が似通ったものがあり、ややこしいことが多いため、念入りに確認をするように注意喚起した。

#### ②入試選抜

入試選抜委員会での協議の結果、令和2年度の入試選抜におけるアドミッションポリシー・総合点算出にあたっての「学力検査の成績」と「調査書の評定」の比率・学力検査問題の選択は前年度から変更はしていない。

### オ. その他の新しい取り組み

#### ①e スポーツクラブ（松井教諭）

昨年度、毎日新聞主催でサンウェブの協力を得て学校のe スポーツクラブを支援するという企画があり、本校にもお声掛けいただいた。それを機に本校でもe スポーツクラブを立ち上げ、昨年から活動している。活動するにあたり問題が多く生じた。ネットワーク使用料、活動場所、ゲームに対するイメージから生徒・保護者ともに嫌厭気味であったこと等。パソコンをレンタルしたり、ネットワークを引いたりとなんとかそれらを乗り越え、今年から全国大会の予選に出場する予定である。決勝戦をめざして日々頑張っているが、まだなかなか実力はついていないように感じるが、今回の予選で世界がどのレベルなのかを学ぶ良い機会になると思っている。

#### ②プロムラミング研究会（川口教諭）

学校にあるドローンを利用してプログラミングに触れることなどを通して、システム教育をして行こうということで、そういったクラブを立ち上げている途中である。現在そのメンバーが3年生しかいないため、これからの設立に向けて下級生を勧誘すべく、今年の文化祭ではドローンを使用した空撮写真を配布するなどの企画をし、宣伝していく予定である。

### ～教育アドバイザーの宮坂氏から泉鳥取高校の現状に対する提言～

自己教育力、学びに向かう力を重要視する上で、生徒にそのための診断テストを行ってもらいその結果から見えてきたことは、自己肯定感が非常に低いことと、自ら学ぶ力も非常に低いということである。また、地域に対する関心が低く、そもそも社会に対する関心も低い。今思

い描いている方向性（地域と交流し、連携を取ってゆくこと・海外旅行を通して国際理解教育を進めること）を確かなものにするためには、まずはそれらに関心を持って活動することが必要である。そして行動を通してさまざまなことを経験した中で、おそらく自己肯定感・成就感が生まれると考えられる。学力にもいえることであるが、まずは意欲や関心を持つ基盤的な力を養わなければならない。そういった機会を学校・教師が提供し、活動をサポートする必要がある。eスポーツクラブがその良い典型になると考えられる。泉鳥取高校の課題としては、生徒が興味や関心を持ち、自らで行動・活動することで得られる達成感や成就感を元に、また違ったことに挑戦してゆくというサイクルを作るための仕掛け・仕組み作りが必要だと感じる。また、この次の段階においては点から面にどのように展開してゆくかも大切である。たとえば、茶道部が参加している公民館祭りの活動を学校全体に伝え、そこでの達成感などを生徒間で広げていくことで、茶道部以外の生徒たちのやる気につながるのではないかと。様々な活動や取り組みをして終わるのではなく、次につなげて、サイクルを作ったとステータス・レベルを上げていくことが重要である。

### 3. 協議事項

#### (1) 学校改革について「魅力ある高校とは」

(司会) 宮坂さんの話にあった、興味・関心→意欲→行動→達成のサイクルを作ることに  
我々教員とは違う目線・観点からのご意見、またはサイクルの話でなくても構いません  
ので委員の方々のご意見等よろしくお願いします。(比嘉さん)

(意見) 運動会するとき幼稚園では、子どもが小さいので教師側がリードして行かなくてはならない。しっかりと下準備をして、その上に子どもたちの気持ちを乗せて、自分たちでやっているんだという気にさせることが大切で、その仕組みがある。泉鳥取高校の3年生が授業の一環として来園してくれるが、そのときの生徒の様子は非常に素直に感じる。小さな子どもたちに目線を合わせて、寄り添い、一生懸命に接してくれている。どの世代にも言えることだが、誰でも興味があることには積極的に取り組むということが基本である。診断テストを行ったように、生徒の興味があることや、やりたいことは何なのかが分かれば、手立てを立ててあげるの簡単になるのではないかと。たとえば、報告事項の中にあった、eスポーツやドローンのような、生徒の興味や関心を基にした取り組みが上げられる。他にも女子生徒であれば、メイクやファッションなど。そのように、今、生徒たちが興味を持っているものを切り口として、基礎学力や学びに向かう力に繋いでいけると良いと思う。興味があることから、どうすればよくなるか、分からないことに対して「どうしたらいいのか、教えて」と思わせられる仕掛け作りができれば、高校生でも生き生きと活動できるのではないかと。授業で園に来てくれている生徒さんたちの生き生きと活動している姿が、他の授業でも同じように見られるようになればいいと感じる。(立石さん)

(司会) 生徒たちの園での姿は、この授業の選択の動機がやはり生徒自身の興味・関心からきているものであるからこそのものであるといえる。興味・関心をできるだけ体験に繋げることが良いということが分かる。私が指導している大学生でも同じように、このような仕組みが大切だと感じる。考えたことを体で表現する、体験する、ということは学習に

は非常に重要なことである。

(意見) 先ほどの報告を受けて地域などの様々なところと連携していることがわかった。近隣の方々に、食堂を開放されていたり、救急救命講習に招いたりして、地域に密着しているのが伝わってきた。このつながりを利用して何かの活動に展開できれば点が面になるのではないか。先日見かけたニュースで、ボランティアが学校で朝食を作って生徒に提供するという取り組みが行われていたのを見た。これにより朝食を抜く子が減る、遅刻してくる子が減る、という効果があったようである。この取り組みを行うには協力してくれるボランティアが必要であること、食堂から食堂利用の許可をとることの必要性などの問題がある。しかし、それらの諸問題をクリアできれば、生徒へのメリットや地域へのメリットは大きなものとなる。また食材の提供についても、地元農家や地元企業、生協などとのつながりも増えて、多くの連携を図ることができるのではないか。(坂上さん)

(司会) とても良い取り組みだと思う。これは小学校か中学校の取り組みでしょうか。高校ではないということで、高校では全国初の取り組みとして、泉鳥取高校が始められるといいと思う。

(意見) ちょうど本校でもその取り組みを始めようとしているところである。現在は昼休み前に地域住民の方に食堂を開放している。校長が、その時間帯を朝にも広げられるといいのではないかと提案しているところである。(橋本教頭)

(意見) 地域連携に関して、公民館祭りに参加する等の学外での活動も必要であるが、阪南市唯一の高校ということで、地域の人に来校してもらうという活動も増やしていければいいと思う。防犯的な面でなかなか学校を開放することは難しいとは思いますが、学校を閉鎖的な空間にするのではなく、地域のコミュニティーの場のような形でもう少しオープンにできればいいと思う。それにより、生徒が様々な人とふれあい、様々な経験ができるのではないか。学校を開放することにより地域の人に泉鳥取高校のことを良く知ってもらうこともでき、ともに生徒を育ててゆこうとする人が増えたり、より良い学校にして行こうという機運も高まるのではないか。先生方の負担が大きくなるかもしれないという懸念材料はあるが、開放的な学校にすることにより、学内で様々な体験経験ができるということは生徒にとって良い学びになり、魅力的な学校にもなるのではないか。(大久保さん)

(司会) 大阪教育大附属学校の事件があつてからは学校の警備というものは厳しくなった。なかなか学校をオープンにするという取り組みは難しいとは思いますが、その中でいかに地域と連携するかが課題となる。

(意見) 体を使って体験したことというのは、後からじんわりと効いてくるものだと実感している。息子が1年生のときにフィールドワーク部の活動で台湾に行った。出発前は、興味が無い、なぜ行かなければならないのか、とものすごく嫌がっていたが、去年台湾が自然災害で大きな被害が出たということをニュースで知ったときは、とても心配していた。台湾に行ったという経験から社会に対する興味が高まったのだと実感した。このような体験をする回数を増やせるように、学校でも企画して行って欲しい。また、人的な環境も大切であると感じる。先生方と生徒の間が人としての上下関係になってしまうのはいい

けないと感じる。先生となるとどうしても上から目線になりがちだと思うが、対人間同士だという気持ちで接することを大切にしていって欲しい。(千地さん)

(司会) 体験できる仕掛け作りや企画をたくさん行って欲しいという願いと、生徒を取り巻く環境整備の一環として今一度先生方の生徒への接し方を見つめなおして欲しいという保護者目線の意見であった。

(意見) 私は大学で人間学概論という講義を260名の学生に開講している。その一番初めの講義で「人は一生をかけて人格を磨いてゆくのである」と示し、受講生全員の名前を書いて提示する。すると、講義レポートなどで「この大学にきてよかった」という意見がみられ、先生は自分を認めてくれているという意識が芽生えていることが分かる。このように受講生に、まずは自分(教師)との距離を縮めてもらうということが大切だと感じている。他に、本大学の学生をピックアップして20名ほど紹介することもある。たとえば私が指導した生徒の中に、中学校時代にやんちゃでタバコを吸ったりして警察に捕まった、その時に中学の体育の先生がホースで水をぶっ掛けてくれたというエピソードがありそれがきっかけで更正し、教師を目指すことにしたという子がいる。その子が親にその夢を打ち明けるとお前がなれるわけがないと言われたが、ずっとその夢を追い続けて本学にきた。当時、採用試験の体育教員の倍率は高く、望みが薄かったため技術家庭の免許を取得し、技術の教員として現役合格した。その後、私がお子さんの配属校を訪れ、校長先生と話す機会があり様子を聞いてみると、やんちゃな生徒たちとしっかりと向き合ってくれているということであった。講義でこの話をするのだいたい受講生は「誰もがはじめからできるわけではない、できないことも頑張ればできる、自分だってそうだ」という感想を持ってくれる。初めの講義で興味関心を持ってもらい、つぎに自分もやればできると意欲をつけるという流れを意識して作っている。泉鳥取高校では、生徒たちはそれぞれに興味関心のあることがたくさんあるはずだが、行動にする意欲や自己肯定感が足りないのではないかと感じる。それをどう広げて行くかがこれからの課題になるのではないかと感じる。先生からの働きかけだけではなく、生徒同士の影響も出てくるといいのではないかと感じる。興味あることに対して、意欲を高めて体を使って体験し、力をつけてだんだんとステージをあげて行く、それが将来の自分の進路につなげてゆけるような学びのシステムを作っていければいいと思う。(比嘉さん)

(意見) 先ほど申し上げたサイクルについて、これはたくさんハードルがあるということを知っておいてもらわなければならない。しかもそのハードルもなかなか高いものである。まずは、プログラムや教材、機会、仕掛けを作ったとしてまずはそこに興味を持つか、やってみたいと思うかというハードルがある。次に興味をもち、やってみたいと思ったとして、実際に取り組むのか参加するのかというハードルがある。自己肯定感や社会への関心が低いと、めんどくさいや何となくという理由で機会を逃すということがよくある。さらにその後実際に取り組んでみて、できた・達成した場合と、できなかった・達成できなかった場合それぞれにもハードルがある。また、できた、できなかったとしてそこに成就感や次への意欲が生まれるかというハードルもある。このようにかなりのハードルがあることがある。それぞれのハードルで躓いている生徒をフォローやサポー

トする必要がある。現段階で様々な取り組みを行っているが、そういった面のケアやサポートも重要になる。(宮坂さん)

(司会) 様々なハードルを乗り越えられるようにきめ細かく指導していくことも大切だということでした。様々な意見がありましたが、先生方は実際生徒と向き合っているなかでこんなことがある、ここが課題であるというような意見はありませんか。

(意見) これまで泉鳥取高校に10年ほど勤めてきて、生徒の様子が変わってきたように感じる。生徒たちはだんだんと落ち着いてきていると思う。しかし、昔は元気な子が多く何にでもやってみようと挑戦する子が多かったが、今はそういった子が少ないということでもある。今の生徒は学校に行かなければならないと思っているが、学び方や行動の仕方が分かっておらず、自分の好きなことや得意なことをどう生かして行けばよいか分からないという葛藤を持っていると感じる。また、すぐに答を知りたいという傾向がとてもある。たとえば、授業で問題(聞かれていること・問われていること)は分かったが、解き方が分からないから答が欲しいと言って来る生徒が増えた。教師の意図としては、解き方を習得して他にも習得して欲しいと思っている。昔は答を渡していたが今は渡していない。昔の生徒は答を渡してもなぜこの答になるのかと考えていたが、今の子は答を丸覚え・丸写しにしている。そのため、テストなどで少しひねって出題すると全く答えられないという現象が起こっている。このような生徒の実態に合わせて教員がサポートしていかなければならないが、仕事量が多く子どもにける時間が少ない。教師が疲弊してしまい余裕がなくなってしまうえば、生徒に悪影響を及ぼす。生徒へ学習や成長、挑戦の機会を作ることも大切であるが、そのための仕事量、時間の使い方のバランスも課題の一つではないかと感じる。(松井教諭)

(意見) 本校に限っての話かは分からないが、考えない子が増えたと感じている。3年次に選択授業があり、それを2年次後半に生徒自らで選択する。選択の前には各授業の概要を紹介する説明会を開いているにも関わらず、最近では3年になり選択した授業に自分自身で何故これを選んだのかという疑問を持つ生徒が増えている。理由としては、説明会や選択の際に少しでも考えていれば分かることを、何となくや、適当に選択してしまっているという現状がある。生徒の興味関心に合わせて学びの場を作る意図で3年次の選択科目があるが、自分の興味関心にあわせて授業を選ぶという前に、自分が興味があることが分からない・知らないという生徒が増えているのではないかと思う。この問題をどうすればいいか、これから考えて行かなければならない。教務部としては、今年の1年生から総合学習の時間が、総合的な探求という単位になった。その授業を利用して考える力をつけたり、自分の興味や関心を見つけることができればいいと思っている。(宮崎教諭)

(司会) 少し観点を変えますが、今年の1年生から制服が変わったということで、そのことについて何かありますか。

(意見) 制服が変わったことにより、賛否両論、様々な意見が生徒、保護者、地域の方から出てきている。制服の着こなしについて、2、3年生とルールが違うことがあり、それについても賛否両論ある。1学期は、生徒自身や保護者から多くの意見があったが、2学期

からは納得してくれたのか、理解してくれたのか、意見をもらうことはなくなってきた。地域の方からは、制服が変わって良くなったという意見を今でもいただいている。これからも正しい制服の着こなしを指導して行こうと思っている。(新明教諭)

(意見) クラブ活動について、本校のスポーツクラブの全校生徒の所属人数は3年生が引退した現在、20人強である。他校でこの人数であることを話すと大抵驚かれる、それくらいの少なさである。原因は何かと考えると、やはりだんぢり祭りではないかと思う。泉州地域の子どもたちは、主にそれに全エネルギーを注ぎ、活発な子ほど祭りに参加しており、クラブ活動に気持ちが向かない。中学校と関係を築いてクラブ活動に力を入れる子も入学して活動しているが、大半はクラブ活動よりもだんぢり祭りに引っ張られてしまう。これからもスポーツクラブの所属人数が増える兆しはほとんどない。(北岸教諭)  
→スポーツクラブの所属人数が少ない理由としては、だんぢり祭りだけではないと思う。

この学校では一人親家庭も多く存在していて、子どもがアルバイトをしないと家計のやりくりがつかない家庭もある。保護者が時給千円を満たない状況で、どのように部活動をできるのか。祭りのせいだとすれば、岸和田高校や、和泉高校、久米田高校はどうか。保護者の立場からするとだんぢり祭りのせいだけにはしないで欲しい。(千地さん)

(まとめ、司会) 興味関心を生かして体験できる活動が多く行われている中で、それを積極的に生徒が参加して、どんどんと次の段階につなげていければより良い学校となると思う。しかし、その途中には多くのハードルがあり、様々なことを一つずつクリアしていかなければならない。理想は全生徒が自己実現できることである。体験するということが非常に大事で、それを核にして点から線に、線から面に展開することも重要である。今行っている取り組みをそういった形で広げて行くことが泉鳥取高校の魅力になるのではないか。

(教頭より) 校長不在の中、ありがとうございました。校長が生徒に対していつも仰っていることは「どうせ、私・俺はイズトリヤから」と言わないようにしようということである。自己肯定感を身に着けさせようとしている。自己肯定感とは、自分が必要とされていると感じることだと思う。ボランティアや地域社会との関わりを通して、自覚を持たせて行ければいい。教員側も仕掛け作りはするが、自分で考える力をつけさせる工夫をしなければならない。今回いただいた意見を前向きに捉え、教員一人ひとりが今後の泉鳥取高校をより良くするために精進してゆきたい。

#### 4. 事務局より次回の連絡ほか

次回予定

第3回 1月24日(金曜日)